

Yokohama National University  
Faculty of Economics

横浜国立大学 経済学部 欧州英語討論会



**Euro-Japan English  
Dialogue 2007  
Guide Book**



Yokohama National University  
Faculty of Economics

横浜国立大学 経済学部  
欧州英語討論会

# **Euro-Japan English Dialogue 2007 Guide Book**

- 1 ご挨拶
- 3 学生代表挨拶
- 4 活動概要
- 5 参加メンバー
- 6 参加メンバーの声
- 8 準備期間
- 10 討論会 カーディフ大学
- 12 トップ校訪問、OB訪問
- 13 討論会 ピサ大学
- 14 欧州英語討論会2008へ向けて  
2006年度参加者より

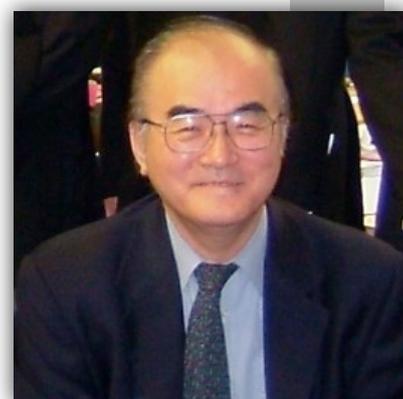
## 欧州英語討論会の歴史

欧州英語討論会の原型は、今から4年前に開かれたエルフルト大学（ドイツ協定校）と横浜国大（経済学部）の英語討論会です。当時、経済学部は短期留学生派遣プログラムを開始しましたが、その第1号の海外提携校が旧東ドイツの名門校エルフルトでした。宗教改革で有名なマルチン・ルターが卒業した大学で、毎年、早稲田大学、慶應義塾大学などと英語討論会をしていました。早稲田大学や慶應義塾大学とはゼミ単位の小さな討論会でしたが、横浜国大は学部単位の比較的大きな英語大会として開催しました。学部の英語の出来る学生を集め、3時間ぐらいの討論のあとで、大学会館の「きやら亭」で学部長主催の懇親会を行いました。

学生の興味もあり、2回目は経営学部の学生、3回目は工学部や教育人間科学部の学生も加わり、観客や懇親会には留学生が参加するなど国際色豊かな大会になりました。4年目からは、エルフルト大学とワイマール大学が政府から奨学金を獲得したために、大学院の学生のためのISP(International Student's Program)と変わりました。日本では横浜国大と早稲田大学、韓国では延世大学が加わり、3カ国、5大学の英語による単位付きセミナーに発展しました、年に3回、ドイツー日本ー韓国で一週間ずつ開催される急がしいスケジュールですが、横浜国大から1-2の大学院生が参加しています。

一方、エルフルト大学との英語討論会の代わりに経済学部が作ったのが欧州英語討論会(Euro-Japan English Dialogue)で昨年から始まりました。この企画の実現には多くの学生の意見が反映されています。例えば、1) 海外で英語討論会を是非開催して欲しい、2) 短期留学帰国者や帰国子女が日本で英語を使う機会が無いので、レベルの高い英語を勉強したい、3) 現地の学生ともっと深い交流がしたい、4) 現地の企業や経営者と会いたいというような希望が出ました。

プログラム作りやスケジュールの調整など大変でしたが、昨年度から、経済学部の正式プログラムとして始めることができました。フォーマットとしては、全体で1週間、1校2日として、第1日目は午前中英語討論会、午後を会社訪問、夕方に懇親会、第2日目は現地教員や学生との交流や地元の名所・旧跡の見学等のプログラムを作りました。移動日も入るので一週間に2校が精一杯でした。昨年度は3-4年の学生を中心に5人（清水君、丸山君、篠塚君、坂本君、十森さん）の学生が参加し、2人の引率者（萩原先生、綿貫）が付き、フランスのパリ12大学とドイツのエルフルト大学と英語討論会を持ちました。人数の選択が大変で、高度な英語を話せる学生となるとどうしても帰国子女や短期留学生となってしまいます。テーマが「若者の失業問題」でしたが、相手のレベルを考えると2-3ヶ月の準備期間が必要で、その間図書館、経済のゼミ室、喫茶店、レストラン、下宿先など転々して準備していたようでした。プレゼンターの十森さんも丸山君も帰国子女で英語には問題がなく、その他の学生もレベルが高かったので本当に有意義なディスカッションが出来ました。ドイツでは寒い日のエルツナー先生（エルフルト大学）の名ガイドぶりやパリでのレストランでの打ち上げは思い出に残っています。また、英語討論会に参加した学生の絆も強く、現在でも時々懇親会を持ち、情報交換をしているというメリットもあります。（次ページへ）



経済学部 准教授  
綿貫 健治

第2回目の英語討論会のフォーマットは基本的には同じでした。討論の相手校としては、英語の本場のカーディフ大学（イギリス）と新しい提携校のピサ大学（イタリア）を選びました。今回のテーマは、タイムリーな「原子力発電は持続可能な発電となるか」というトピックを選択しました。今回は有江教授に引率のご協力を頂くことができ、昨年度参加した丸山君がリーダーとなり、荒井君、中島君、青柳君、太田君、稲川君、大西さん、内田さんと8人の英語の堪能な帰国子女や短期留学帰任者に恵まれました。今年の学生も非常に熱心で、夏休みから約3ヶ月間ぶつつづけて準備をしました。特に、実際に原発の現場や電気事業界の専門家に会ったりして知識を深めました。このプロセスや現地での共同作業を通じて得た友情や成果は計り知れないものがあります。これも英語討論会の目的の一つです。

今回は会社訪問のほかに、イギリスでの滞在中に、先輩訪問と名門校訪問を入れました。すなわち、経済学部の先輩で現在日本経済新聞のヨーロッパ支局社長をしている小池洋次さん、そしてLSEとオックスフォード大学でした。カーディフ大学での英語討論会では、ネイティブに対して横浜国大グループはほとんど遜色がなく討論ができました。日本語討論を入れたことも新しい試みでしたが、現地の学生に大変好評でした。フード先生、百済先生がいろいろ細かい点で協力してくれたことが大きな助けになりました。LSE及びオックスフォード大学訪問は将来の企画として訪問しました。すなわち、両校でのサマースクール参加や横浜国大の現地での学生セミナーの開催（例えばYNU IN OXFORDなど）、学生の個人留学可能性などの意見を担当者と交換しました。ピサ大学では、英語討論は、お互いに英語が第二外国語でしたが、内容の高い討論ができました。ギディ先生がアレンジしてくれた、スクーターやバイクで有名なピアッジョ・モーター会社を訪問し、博物館や生産ラインを見学できたことはハイライトの一つで、この英語討論会が単なる英語討論会でないことを示しています。

このように、英語討論会は学生の英語研修から実際には1) 国際的な問題を英語でお互いに議論し考える場であり、2) 現地学生との学生としての深い交流を実現し、3) 短時間であるが企業インターンシップを通じた企業理解を増し、4) ヨーロッパの各国の相違を理解（特にアメリカしか知らない学生にとって有益）、5) 世界の一流校へのアクセスなど、当初考えていた英語討論会からさらに発展させる要素が出てきました。今後は、こういう貴重な経験を学部だけでなく、大学全体でシェア出来る様に、十分な予算をつけて大学行事にする方向が、長期的には横浜国大の国際性を上げることになると信じております。

経済学部 准教授 綿貫 健治



## チームワークの結晶



経済学部  
国際経済学科  
丸山 友裕

今回は私にとっては昨年に続き2回目の欧州英語討論会でした。昨年は始めてではあったにも拘らずそれなりに成功させることが出来ましたが、改善の余地もそこそこに見受けられました。そこで、メンバーの中の唯一人の経験者としてリーダーとなった私は昨年の反省を踏まえて次のような目標を掲げ進めることとしました。1) プレゼンおよびその後のディスカッションを通して、昨年度よりも活発な議論を心掛け有意義な討論会にすること。2) 今回参加する8人全員がそれぞれの持つ力を最大限に発揮できるようにメンバー全員が目標をしっかりと共有し、欧州英語討論会を盛り上げること。

スタート当初は昨年の経験を活かして、メンバーに欧州英語討論会の流れを理解してもらう事ができました。ところが発表テーマを決めて具体的な内容を決めていく過程でどのような議論を目指すかということでメンバーの意見が合わず、中々方向が見出せませんでした。その理由として、今回は初めて集まったメンバーであり、お互いにそれぞれが思った事も言い合える状態でなかった事が挙げられます。昨年は大半のメンバーはお互いに旧知の仲であった為、話し合いも始めからスムーズにスタートできたし、お互いが言わんとするところを理解しあえる様なところがありました。今年は自身の思いや経験をうまく伝える事が出来ず、メンバーも討論会というものがどのようなものなのかを理解するのに時間が掛かったように思えます。

リーダーとしてどのように進めていこうか、と悩んだ時に改めて先生のご指導や昨年の仲間からのアドバイスを参考にして再度討論会の準備手順を一から振り返り、リーダーとしての自分にできることを改めて考えてみました。そして、メンバーのモチベーションを上げていくことを自身の目標に加え、彼らと密に連絡を取ることで、随時意見を引き出すことに力を入れました。その結果、新たな方向性と目標を共有することができ、また、意見や疑問点に対して皆が本音でぶつかることができるようになりました。そして、迎えた本番では、自分も皆も目標としていた有意義な討論を行うことができました。その詳細については、この報告文中でそれぞれのメンバーが後述します。

討論会当日もさることながら、この討論会までの過程こそが、昨年度も討論会を経験した自分にとっても、今回の最大の収穫でした。それは、メンバー一人ひとりにとっても、同じであったと思います。メンバーの高い意識の下で、討論会自体の質を確実に向上させることができ、仲間と共に高度な目標を共有し、課題を乗り越え、作り上げていく過程の大切さを学びました。

最後に欧州討論会という貴重な機会を与えてくださった先生方、経済学部の関係者の皆さんに感謝するとともに、今後もこの欧州英語討論会がますます盛りあがることを期待しています。



## 第二回欧州英語討論会の開催

経済学部は、去る11月5日（月曜日）から11月9日（金曜日）までの1週間、カーディフ大学（イギリス）、ピサ大学（イタリア）と横浜国立大学（経済学部）との間で、第2回の「2007年欧州英語討論会（Euro-Japan English Dialogue 2007）」を開催いたしました。

経済学部から丸山友裕さん（国際経済学科4年）、荒井千尋さん（国際経済学科4年）、青柳信裕さん（経済システム学科3年）、稲川佳宏さん（国際経済学科4年）、内田佳奈さん（国際経済学科2年）、太田裕一朗さん（経済システム学科3年）、大西さやかさん（国際経済学科3年）、中島哲嗣記（経済システム学科3年）の学生8人と、経済学部の引率として 有江大介教授、綿貫健治准教授の合計10人が参加いたしました。

昨年はパリ12大学（フランス）とエルフルト大学（ドイツ）と「若者の雇用問題」について討論いたしました。今年のテーマは、先進国間で活発な議論がなされている「原子力発電」についてでした。原子力発電の問題はタイムリーで、各国の政策は様々ですので、イギリスとイタリアの学生と両国のエネルギー問題を真剣に討議したいという希望がありました。

11月5日、カーディフ大学において、英語討論会のほかに、カーディフ大学で日本語を勉強している現地の学生との日本語での討論会、その他、カーディフ大学の学生との交流会に加えて、企業研修としてカーディフで自動車部品を大手自動車に販売している株式会社テクノアソシエ（旧東洋物産株式会社）のヨーロッパ本社にも訪問し、現地の社長と面談を行いました。

提携校との討論会の他に、11月6日、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）とオックスフォード大学を訪問しました。LSEでは、同大学院のサマースクールの責任者とお話し、オックスフォード大学では、同大学の職員の方の案内の下、普段は入れない礼拝堂や名だたる有名政治家が演説し、年に一回行われるイギリスの大ディベート大会の会場でもある歴史あるディベート会場の見学もさせていただきました。また、横浜国立大学の卒業生でもある小池洋次欧州日経社長と面談いたしました。

11月8日 ピサ大学では、英語討論会とピサ大学の学生との交流会の他に、企業研修としてイタリアの有名企業ピアジオ社の博物館訪問と工場の見学を行いました。

（文責・中島哲嗣）

### 荒井 千尋

---

国際経済学科 4年  
アメリカ合衆国 サンディエゴ州立大学短期交換留学  
(2006.8 ~ 2007.5)

### 稲川 佳宏

---

国際経済学科 4年  
アメリカ合衆国カリフォルニア州立大学  
サクラメント校短期交換留学  
(2005.8 ~ 2006.5)

### 丸山 友裕

---

国際経済学科 4年  
イギリス Ashville College 高校留学  
(1997.9 ~ 2002.7)  
アメリカ合衆国ユタ州立大学短期交換留学  
(2005.8 ~ 2006.5)

### 青柳 信裕

---

経済システム学科 経済コース 3年  
イギリス シェフィールド大学 短期交換留学  
(2006.8 ~ 2007.6)

### 太田 裕一朗

---

経済システム学科 法と経済コース 3年  
イギリス Worksop College 高校留学  
(2002.8 ~ 2004.7)

### 大西 さやか

---

国際経済学科 3年  
シンガポール United World College of South  
East Asia 中学・高校留学  
(1992.7 ~ 2004.6)

### 中島 哲嗣

---

経済システム学科 経済コース 3年  
アメリカ合衆国 サンディエゴ州立大学短期交換留学  
(2006.8 ~ 2007.6)

### 内田 佳奈

---

国際経済学科 2年  
カナダ St.Johns International School 高校留学  
(2003.8 ~ 2005.7)



イギリスとイタリアにおいて英語で討論会を行うために  
外国高等学校出身者及び、短期交換留学帰任者により構成

## 参加メンバーの声

長期間のグループワークの経験が無かったので、自分がグループにどう貢献出来るのかで悩むこともありましたが、各々の意見をぶつけ合って一つの形に上げていく経験を通して多くのことを学べ、苦楽を共にした大切な仲間を得ることが出来た非常に貴重な場でした。



国際経済学科 荒井 千尋



国際経済学科 稲川 佳宏

私は欧州英語討論会の中で困難だったことは準備期間中に私達の発表の構想決めだと思えます。連絡もあまり取れず、どうしたら相手の大学を巻き込んで現地の学生の生の声を聞けるのかを悩んでいました。8人が独特の考えを出したが一向に決まらず、議論が宙に浮いている時間が続いていました。私達は横国、そして日本代表でもあるので『日本の現状』を伝えることとし、『原子力発電』に関する日本の推進する立場を相手に伝えることに決めました。日本の強固な原発推進政策を主張することで、カーディフの学生は日本の見解に興味を示し、自国の考えを示してくれ、ピサの生徒は原子力発電に否定の立場をとっていたにも関わらず、日本の主張も受け入れられました。この討論を通じて意見を言い合える仲間を得た事、そして海外の学生から臨場感あふれる意見が聞けた事は有意義だったと思えます。

欧州英語討論会の魅力は、仲間テーマや内容を最初から作っていく過程にあるのではないかと。形式は自由である。自分達が求める目標がそのまま討論会に反映されるのだからこれ以上面白いことはない。高い志が高い結果を生む。討論会当日は現地の学生との議論を通じて、日本ではなかなかできない経験ができる。

心に大きな夢を抱いている人、その夢のために成長したい人、仲間と懸命に協力し合って何かを成し遂げたい人、欧州英語討論会はそんな君達のためにあります。



国際経済学科 丸山 友裕

欧州英語討論会は僕にとって本当に素晴らしい経験になったと思えます。本格的な準備段階を始めた8月から討論会本番の11月までの約3ヶ月間、自分の意見を的確に伝える難しさ、それぞれの意見を一つの形にする難しさなど、先生方のアドバイスをいただきながら僕たちはここには書ききれないほど本当に多くの困難を経験しました。そして討論会が終わったときには、経験した困難以上の達成感や充実感を得ることが出来たと思えます。

また個人的には、帰国子女のメンバーが多い中、海外経験が10ヶ月ほどしかなかった僕にピサ大学にて英語でのプレゼンテーションを任せていただき、欧州英語討論会を自分の英語力を試し、経済問題の議論が出来る程のレベルにすることが出来ました。

このように多くのことが学べる欧州英語討論会、多くの学生が参加し、学生時代に多くの学びや気づき、そして自分の考えを本気でぶつけ合うことの出来る仲間を得るチャンスとしてほしいと思えます。



経済システム学科 青柳 信裕



経済システム学科 太田裕一朗

欧州英語討論会は、“International, Intercultural, Inter-college”であり、学生が留学等で海外で身に付けてきた自分自身の力を存分に発揮できる場所です。そして、国大の中でかけがえの無い大切な仲間に出会える場所だと思います。充実していて、忘れる事の出来ない大切な経験と思い出です。

全く知らない人ばかりのグループで最初馴染めるか心配した7月が今となれば嘘のようです。グループの中で、「自分は何ができるのか」を模索していく段階は苦勞しましたが、様々な形で貢献でき成功に結びつけられた喜びは忘れられません。仲間達と同じ目標に向かう楽しみも沢山味わえました。

今後このような素晴らしいチャンスに多くの学生が挑戦し、自分自身を変える・成長させることができることを心から祈っています。留学経験を生かし、更に自分を高めたい・学校の授業だけでは得られないモノを得て将来につなげたい、欧州英語討論会はそれを可能にできる場所だと言えます。

私が欧州英語討論会の存在を知ったのは7月の半ばである。昨年の様子を伺い面白さを感じた一方で、「テーマ」や「討論の仕方」など与えられたものをこなしていくのではなく、自分たちで築き上げていくものと当初は知る由もなかった。しかしながら、一番の醍醐味はそこにあると私は信じている。

もちろん8人揃えば8人違った考えがあり、各自が多忙の中、それらを統一するのは大変な作業であった。だからといって妥協せず、お互いの意見をとことんぶつけ合ったからこそ、納得いく素晴らしい「討論会」が出来たのだと思う。プレゼンテーションを効果的に行う方法、相手と議論する際に想定質問などを予め想定し準備するなど「討論会」に向けて様々なテクニックを学べたこともいい経験であったが、それ以上に一つのプロジェクトを仲間と成し遂げた「達成感」、そして半年近くにわたるこのプロジェクトで知り合った仲間に出会えたことが何よりも貴重な体験だった。

成長したい、何か新しいことを始めたい、面白そう、そんな魅力を感じてもらえたら、是非欧州英語討論会にチャレンジして欲しい。



国際経済学科 大西 さやか

決して単なる旅行や留学では経験できない濃密な時間が欧州討論会にあった。僕が得たのは、最高の仲間7人と海外で対等に討論ができるという自信だ。3ヶ月にも渡る準備は、おもしろくもない、単なる「お勉強」的な時間は少なかった。異国の初対面の学生へ納得性のあるロジカルなプレゼンテーションの準備、相手の反論に対する受け応えの準備など、これだけプロフェッショナルな時間は、決して他では経験できないものだと思う。そのモチベーションを支えたのは、イギリスとイタリアのいう異国の地へ自ら赴き、討論してくるといふこの欧州討論会の魅力があったからこそだと思う。多くの学生にこのチャンスを逃してもらいたくないと強く思います。



経済システム学科 中島 哲嗣

今回の欧州英語討論会に参加できた事をとっても嬉しく思っています。途中、メンバーの中で唯一の2年生ということもあり、自分の意見を主張してもいいのか迷った時期がありました。しかし、年齢に関係なく意見を聞き入れてくれる先輩たちばかりで、自ら考え、積極的に討論に参加することができました。日本語のプレゼン発表も任せてもらい、責任をもって取り組むことができたと思います。この討論会のプレゼン作成の際に、自分の意見を相手に的確に伝えることの難しさ、またみんなの考えをうまく取り入れたプレゼン発表を作ることの難しさを経験しました。難しいからこそ、みんなで1つの物を作り上げたときの達成感は何ものにも換えがたいものになったと思います。

今後もより多くの人にこのすばらしい討論会に参加して欲しいです。



国際経済学科 内田 佳奈

## 準備期間

6月下旬～7月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>綿貫先生によるメンバー集め</li> </ul>	
7月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧州英語討論会メンバー顔合わせ</li> <li>概要の説明、および今後の活動予定の発表</li> <li>討論会テーマについて話し合い開始</li> </ul>	
8月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>討論会テーマを5つに絞る→各メンバーの調査役割分担</li> </ul>	
8月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>討論会テーマについての調査報告、議論することにより、テーマを2つに限定</li> <li>討論会参加メンバー確定</li> </ul>	
9月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>討論会テーマが原発に決定する</li> <li>各メンバーの欧州英語討論会に対する目標について話し合う</li> <li>現地の学生に討論会の目的を伝えるための提案書作成開始</li> </ul>	
9月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界、各地域における原発事情についての調査開始</li> <li>同時にプレゼン内容の方向性について話し合う</li> </ul>	
9月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案書作成</li> <li>プレゼンの流れ、内容、私達のスタンスを具体化</li> </ul>	
10月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼン案をより具体化するために、綿貫先生と相談しつつ、原発推進派というスタンスを決める</li> <li>プレゼン内容に関する資料収集</li> <li>日本語版プレゼンの完成</li> <li>プレゼンに対する想定Q &amp; Aを作成</li> </ul>	
10月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>綿貫先生、有江先生とも話し合いながらプレゼン内容の改良・改善の繰り返し</li> <li>各メンバーのフライトスケジュール確認</li> </ul>	
10月下旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>浜岡原子力発電所見学、電気事業連合会訪問による資料集め</li> <li>プレゼン内容の確定</li> <li>討論会の模擬練習、及び綿貫先生、有江先生、パーソンズ先生、ホフマン先生による指導</li> </ul>	

## 浜岡原発見学、電気事業連合会訪問

私たちの今回の準備期間は、およそ3ヶ月にも渡っています。日々のミーティングで築いたチームワークを生かし、準備段階においては、様々な困難な課題にも共に取り組み、乗り越えることができました。大まかに振り返ると、7月中旬に顔合わせを行い、8月はメインピックを絞る作業、そして9月下旬からは討論会へ向けたプレゼンテーションの作成や、討論対策の質疑応答の準備などがありました。特に9月下旬から10月中旬までは連日のように学校等で集まり夜分遅くまでミーティングを繰り返しました。

「原子力発電」というトピックを取り上げ、プレゼンテーションの準備を行い、各自勉強して行く上で、「一度日本にある原子力発電所を見ておく必要があるのではないだろうか。」という思いがメンバーの中に浮かんできました。そして10月20日、株式会社中部電力様のご協力のもと、浜岡原子力発電所に併設されている原子力館の案内をして頂き、自らの目で原子力発電の仕組みを学び、また事前に用意した質問にお答えいただきました。

実際に足を運び、見ることで、本やインターネットなどで調べているだけではわからない事が多くありました。また同時に、討論会に臨むにあたって「見学してきた」ということは確かに私たちの自信になったと言えます。行動し、様々な物を目にし、学ぶ事の重要性に改めて気付きました。

原子力発電所を見学した興奮も冷めないまま、電気事業連合会訪問の話を綿貫先生から頂きました。広報部石田様（経営学部卒）のご好意により訪問が実現し、原子力を始めとする電力全般に関してレクチャーを頂き、また私たちが事前に用意した原子力発電に関する質問にもご丁寧にお答えいただきました。長らく原子力発電所にて勤務されていた中村様、所謂「原子力のプロ」にお話を伺うことができ、非常に有意義であり、充実した時間を過ごすことができました。お忙しいにも関わらず数時間に渡って私たちにご協力いただいたお二方に感謝の気持ちでいっぱいです。

この3ヶ月間学ぶ事が非常に多かったと言えます。また全員で共に、一つの目標「討論会成功」に向けて走ることが出来たことはそれぞれの大学生活における大切な宝物になり、強い自信にもなったと感じています。

(文責・太田裕一朗)



浜岡原子力発電所見学



電気事業連合会訪問

# 欧州英語討論会 カーディフ大学

## 欧州英語討論会当日の流れ

11月5日	9:30～	カーディフ大学集合
	10:00～12:00	英語での討論会
	12:00～14:00	日本語での討論会 ・原発に関する相互の見解発表（日本：賛成 イギリス：中立） ・質疑応答、議論（化石燃料代替エネルギーとしての原発の可能性）
	14:00～	テクノアソシエ 企業訪問
	16:00～	懇親会（カーディフ大学にて）
	20:25～	ロンドンへ出発



## カーディフ大学との討論会 (英語)

私たちの2週間に及ぶ欧州討論会は、ウェールズ的首都カーディフにて幕開けとなりました。古い石垣造りのカーディフ城や歴史を感じさせる閑静な住宅街。一方、駅周辺では急速な開発が進みやショッピング・モールが立ち並び、「歴史」と「新しさ」が混在する街であったのが印象的でした。

この街で、欧州滞在2日目に当たる11月5日、英語による討論会がカーディフ大学のビジネス・スクールと行われました。カーディフ大学は、学生数25,000人、教員5,500人からなり、29のスクールが存在します。その中でも、カーディフ・ビジネス・スクールは英国の主要なビジネス・スクールの一つとして有名で、イギリス国内のみならず、国外からも多くの生徒が通う教育機関として知られています。現在、ビジネス・スクールに通う学生は2,500人で、アーバー・コーンウェイという場所にキャンパスがあります。キャンパスだけでなく、どこの建物や標識も英語とウェールズ語で表記され、イギリスの中でも異国に来た錯覚を感じました。

当日はカーディフ大学から14人の学生が、「原子力発電の持続可能性」のテーマのもと英語討論会に参加しました。横浜国立大学は、原発を推進する観点から15分のプレゼンテーションを行い、日本の原発がいかに今後の持続可能なエネルギー供給源としてみなせるか、そして先進国として国際的な原子力の規制枠組みや技術などの協力を率先してする重要性について発表しました。またカーディフ大学の学生は、イギリスの原発の実情や今後の課題などを経済的・社会的観点のみならず政治的な側面からもプレゼンテーションを行い、非常に印象的な発表となりました。

お互いのプレゼンテーション終了後は、1時間半に亘るディスカッションの時間が設けられ、原発がいかに温暖化ガスを排出せず、環境に配慮したエネルギー供給源であり、膨大な量のエネルギーを安定的に供給することができるものとして両学生ともに一致した見解を持つことができました。一方、一部のカーディフ学生の中には、ファクトとしての安全面だけではチェルノブイリの様な事故は防げないとし、欧米と日本の安心・安全文化の違いなどを疑問視する声もあり、とても興味深い討論会として終わりました。

(文責・大西さやか)



## カーディフ大学との討論会 (日本語)



カーディフ大学では、日本語でのプレゼンテーション、ディスカッションも行いました。英語で発表した内容を日本語に直し行ったのですが、現地の学生の日本語は想像以上にレベルが高く、とても驚かされました。カーディフ大学の日本語専攻の学生にとって、日本人学生にプレゼンテーションをし、一緒に討論をするというのは今回が初めての試みでした。



日本語での討論会は現地の学生だけでなく、教員にも評判が良く、将来イギリス教育省の奨学金をもらって学生を本学での討論会に送りたいとの希望もありました。彼らが生の日本語に触れ、更なる日本語のレベルアップを目指すという当初の目的は達成できたと思います。お互いに多くのものを得られた討論会になりました。また、カーディフ大学討論会のメンバーの中には、去年横浜国立大学に留学していた学生もあり、彼女の堂々とした日本語のプレゼンテーションは、他のイギリス人学生にも横浜国立大学への留学の魅力を伝えられたと思います。このように、我々日本人学生だけでなく、現地の学生も貴重な体験ができた討論会となりました。

午後から訪れた現地にある日系企業テクノアソシエ（旧・東洋物産）では、主に海外で働く難しさや、その必要性についてお話を伺うという貴重な体験ができました。

(文責・内田佳奈)



日本語でプレゼンを行う  
カーディフ大学の学生たち



テクノアソシエを企業訪問



## LSE, Oxford大学訪問、小池日経欧州局長訪問

11月6日、経済学部やビジネスで有名なロンドンスクールオブエコノミクス、ポリティカルサイエンス (LES)に訪問しました。この大学は町の中にあり、駅から歩いていくと大学街のような雰囲気を感じ取れました。

留学生向けの入学担当者が私達を暖かく受け入れてくれ、サマースクールや大学院のプログラムについてお話をしていただけました。私達からの質問にも回答していただき同大学の魅力を感じる事ができました。同大大学院の80%は海外からの留学生で卒業後は帰国し、政界に進出する学生が多いとのこと。主に中国、北米、インド出身者が多くいます。現在日本人学生は100人程度と少数派に位置します。また、本学とLSEとの提携に関しての話をして頂きました。その後、校舎を見て回り、普段の学生の生活を垣間みる事ができました。

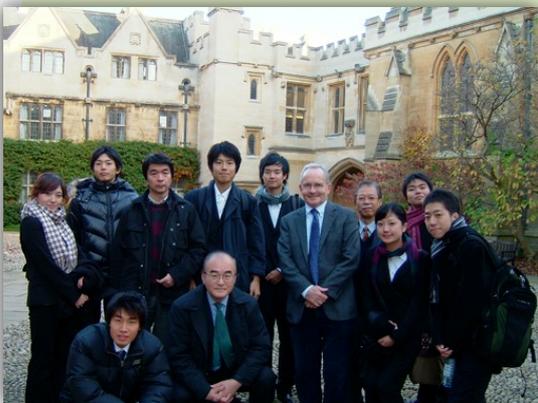


LSEにて

午後は列車で移動し、有名なオックスフォード大学を訪問しました。担当の方が案内して頂き、同大学では数々の有名人が通ったカレッジ、教室、討論会場、教会、宿舎など生活の中心になる所を見学させて頂いた。普段は公開していない有名な食堂を見る事ができたのは印象的でした。

オックスフォード大学には留学生が約50%通っていて、その中の二名の学生と対談しました。普段の生活、勉学のスタイル、チュートリアルの話から日常生活の雰囲気を感ずることができました。

オックスフォードを後にし、夜には本学経済学部卒業生で日本経済新聞欧州担当社長である小池洋次さんのお話を聞きました。



オックスフォードにて

小池さんからはイギリスの特に経済事情やロンドンの経済事情の話がありました。小池さんはロンドンが他民族社会都市に変化しつつあること、テロに対する恐怖、そして国民の新聞購読率の高さについてのお話をされました。その後でイギリスとEUの関係について話されました。イギリス社会に対してのお話は興味深い内容であり有意義な機会になりました。欧州英語討論会の激励のお言葉を頂きました。

イギリスの中でも有名な大学のうちの2つに訪問し、またイギリスでご活躍される卒業生の話聞いたことは貴重な体験であったと思います。今後もこのような有名な大学と本学が交流できる機会があることを期待します。私達の将来を考える上で大変参考になる一日でした。

(文責・稲川佳宏)

## 欧州英語討論会当日の流れ

11月8日	9:00～	ピサ大学集合
	9:30～12:30	英語での討論会 ・ 原発に関する相互の見解発表（日本：賛成 イタリア：反対） ・ 質疑応答、議論（原発の安全性と他の発電方法の検討余地について）
	12:30～14:00	昼食
	14:00～18:00	ピアッジョ 会社・工場訪問

## ピサ大学にて討論会、ピアッジョ社訪問

11月8日、私たち一行はイタリアのピサ大学にて英語を使った討論会を行いました。互いの第2外国語である英語で1つのトピックに関して議論を交わすことは、これからの国際化社会での英語の有用性を再認識し、また率先して国際舞台を先導していく人材を育てるこの上ない練習になったのではないのでしょうか。また、イタリア政府は世論に基づき一切の原子力発電所を使わない方針を立てているため、イタリア人学生と原発推進派の立場をとった我々横浜国立大学の学生との本討論会は真剣そのものとなり、予定議論時間の2時間半は文字通りあっという間に過ぎてしまいました。

このような高いレベルでの討論の機会を多く経験することは、私たち参加した学生にとって、主張や意見交換を通じ、EUの一国としてのイタリアの立場、経済大国としての日本の立場、両国の世論や学生の意見の相違点・共通点をよく理解できる場になりました。

討論会後の交流会では、ピサ大学のカフェテリアにて双方の大学の学生、教授が混ざりあいながら、討論会とは違う穏やかな雰囲気です。イタリア料理をいただきました。この真剣さとアットホームな雰囲気の上手な使い分けができるのも外国ならではのものだと思います。（文責・青柳信裕）

ピサ大学との討論会の後は、ヨーロッパ最大手二輪メーカーであるピアッジョ社の博物館兼資料館と同社の工場での生産ライン見学をしてまいりました。



ピアッジョ社にて



映画『ローマの休日』で使用されたスクーターの“ベスパブランド”で知られるピアッジョ社ですが、第二次世界大戦前までは鉄道、船舶、航空等、輸送機器メーカーとして名を馳せたイタリアきっての大会社でした。戦後、それまでに蓄積した技術で開発したのがスクーターの“ベスパブランド”で、現在では傘下にアプリリアやモトグッツィといったオートバイメーカーだけでなく、マイクロカーや、航空機メーカーなどを持つ、イタリア国内のトップ二輪メーカーとなっています。

その証拠として博物館の敷地内には実際に同社が生産していた航空機や、鉄道車両の展示もあり、ピアッジョ社の歴史の古さを物語っていました。

資料館では、その創業期から二輪業界に本格参入するまでの歴史的資料や写真、また、各年代での広告資料や歴代のベスパを始めとした、ジレラやモトグッツィなどのピアッジョ社傘下ブランドのレース用車両などの展示も行われており、歴史だけでなく当時のピアッジョ社の販売・企業戦略を知ることもしれました。

そして、本社工場では主力商品であるベスパの組立工程を見学し、生産工程や従業員の方たちが働いている雰囲気などを知ることが出来たので、日本企業とイタリア企業の文化や風土の違いを考えるきっかけとなる大変有意義なものでした。

（文責・荒井千尋）

# 欧州英語討論会2008へむけて

Guide Bookを通してお解りいただけたように、欧州英語討論会はただ単に、横浜国立大学の学生だけでなく、海外提携校の学生にも良い影響とインパクトを与えていると言えます。今後も、より多くの学生が参加する事により、横浜国立大学と提携校相互にとってよい刺激を与え続けられるよう継続的に開催したいと考えております。

また、この英語討論会を通して、海外の学生との交流はもちろん、それまでの過程で得るものもとても大きいと思います。学年に関係なく、一つのチームとしてプレゼンテーションを作り上げ、海外で1週間ほど行動を共にするという経験は英語討論会でしか出来ないでしょう。

今後もより多くの学生に貴重な体験をして欲しいと思います。しかし、残念ながら全ての学生が参加できるわけではありません。ある程度の英語のレベルを必要としますので、参加には条件を付けたいと思います。

- ・留学経験のある人
- ・英語でも問題なく会話ができる人

上記を満たしている人は、是非2008年度の英語討論会に参加してください。討論会後は今までの自分より、一回りも二回りも成長できているはずです。

2008年度へ際しての質問や、その他にも討論会に関して聞きたいことなどがあれば、tommy10020022jp@hotmail.com（経済学部 丸山友裕 ※2008年3月まで）または、kana\_rose31@hotmail.com（経済学部 内田佳奈）までご連絡ください。



## 2006年度参加者よりメッセージ

2006年度の参加者の方々より、参加した際の感想やメッセージを頂きました。

2006年10月に参加させてもらった欧州討論会（ドイツエルフルト大学・フランスパリ12大学）は、就職を控える私にとって国際的な文化交流やプレゼン能力向上だけでなく、海外企業訪問による企業文化の勉強など、将来に活かせる貴重で楽しい経験になりました。今後社会に出て国際的に交流・活躍したいと思う学生にはこの経験と思い出作りの機会を是非お勧めします！

経済学部 2007年卒業 十森裕子

前例がない中、自分達で資料を作成し、他大学の学生と討論を行うのは大変でした。しかし、その過程を通じて、相手に自分の考えを分かりやすく伝えることの大切さを学びました。また、メンバーとの絆を深めることができたのもよかったです。

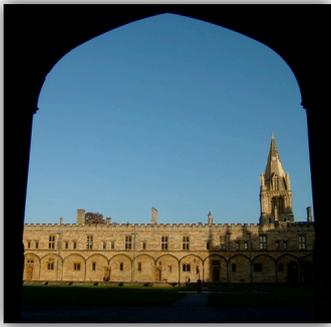
あなた次第でこの討論会から得られるものは違ってくると思います。悩んでいるのなら恐れず挑戦してみてください。きっと忘れられない思い出になるはずです。

経済学部 2007年卒業 坂本朋弥



五人の日本人学生に注がれる視線・・・欧州討論会では、まさに一人一人の学生が"日本代表"でした。後輩達にも"日本代表の一員"として、この発展途上のプロジェクトを主体的に盛り上げていって欲しいと思います。

経済学部 2007年卒業 篠塚友吾



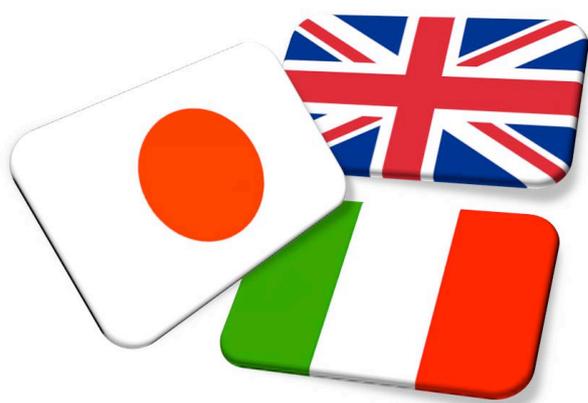
## 欧州英語討論会2007 Guide Book

発行日・2007年12月30日

発行責任者・綿貫 健治（経済学部 准教授）

編集者・太田 裕一郎（経済学部3年）

横浜国立大学経済学部



横浜国立大学 経済学部  
Euro-Japan English Dialogue 2007